

黒澤敏朗先生のご姿勢に学ぶ

摂南大学経営学部教授・前経営情報学科学科長の黒澤敏朗先生は2017年3月にご退職の予定である。

黒澤先生は、1971年3月に大阪府立大学工学部経営工学科をご卒業になり、1973年に同大学院工学研究科経営工学専攻修士課程を修了、1976年に同大学院工学研究科経営工学専攻博士後期課程の単位を取得された後(1984年に「需要予測モデルの同定とパラメータ推定に関する研究」により工学博士(大阪府立大学))、直ちに工学部経営工学科助手として設立間もない摂南大学に着任された。

その後、工学部(現:理工学部)から経営学部へ転籍されたとはいえ、41年の長きにわたってまさに摂南大学一筋といえる研究・教育人生を過ごされた。その間、工学部経営工科学科長、全学FD委員会委員長、工学研究科機械・システム工学専攻修士課程専攻主任、地域連携センター副センター長などの要職も歴任された。1975年に摂南大学が工学部の1学部5学科からスタートしたことを思う時、今日の中規模総合大学として確固とした地位を占めるまでに成長してきた過程において、経営学部はいうに及ばず摂南大学全体に陰に陽に果たされた黒澤先生のご貢献の数々を想像することは難くない。体制や仕組みが全く整っていない状況のもとで、一から新たなものを導入し根づかせていく地道な苦労話をしばしば先生から教えて頂いたことが今は大変懐かしい。

先生の時代は、コンピュータが一般社会において身近で利用されはじめ急速にその機能を向上させていく時代でもあったかと思う。このような社会背景のもと、統計解析と情報技術に秀でた先生は、院生時代からの関心事である時系列予測に関する研究に加えて、ビジネスゲームや経営シミュレーション、さらには自動設計エキスパートシステムの開発へと、ご自身の関心を展開されていくことになる。

摂南大学における41年間において先生がまだまだ痛恨の念を禁じ得ないのは、先生が摂南大学に奉職されて以来所属されていた工学部マネジメントシステム工学科(旧:経営工学科)の学生募集停止という出来事であったかと思う。先生のお気持ちを全く斟酌せず極めて身勝手なことをいえば、この改組によって、経営工学科創設当初の羽石寛寿先生(前経営学部長、昨年ご退職)と先生の名コンビが28年ぶりに経営学部で復活することになり、さらなる充実に向けた強力なエンジンを手にするという幸運が結果的に経営学部にもたらされることになったのである。

先生の教育・研究に対する取り組み方は、先生ご自身が指摘されているように「短期的な成果を追わず、長期的な視点で地道に努力する」というものである。私も先生には日頃のお仕事ぶりからそのような印象を強く持っている。ややもすれば大学においても、実質・内容はさておき、社会の注目を集めるであろう目新しい活動やイベントに関心の目が向きがちである。「教育・研究に地道に日々努力する」という先生のご姿勢を学び受け継いで行きたい。そう思っている。

経営学部長 高尾 裕二